

直後	
管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・統括・現場指揮者を明確に宣言。 (統括指揮権は、会長 → 相談役 → 管理者 → 主任 の順とする) ・被害状況の把握 情報収集・整理・開示 ・他機関との連携、現場指揮者との連携とサポート ・BCP発動の判断
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてのスタッフが、アクションカードに沿って行動。 <p><参集></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区域に震度5強以上の地震、それ以外でも指揮者の判断で参集を実施。震度5弱以下で停電などがある場合、オンラインで参集し安否確認へ進む。 ・ライフラインが遮断されネットワークが繋がらない場合は自主参集を考慮。自主参集は、夜間帯であれば事務所まで自転車または徒歩で行けるスタッフに限り、自身の安全を確保して行う。 ・最初に事務所に着いた者は、事務所が参集場所として危険と判断した場合は、事務所内へは立ち入らず、マネジャーまたはサポータークラスのスタッフとともに、避難所等、他の安全な場所の拠点設置が可能か検討・調整する <p><連絡方法は下記の順></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 LINEもしくはGoogleChat 2 個人携帯、プライベート携帯 <p><スタッフ帰宅困難者の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低 3 日間分の食材・生活用品の備蓄でしのぐ ・参集したスタッフは 3 日間を目処に事務所または付近の避難所で過ごす
対利用者	<ul style="list-style-type: none"> ・停電地域がある場合、医療機器の利用者 に対し電話安否確認を行う。 ・安否確認の優先順位 A・B・C の利用者へ、それぞれ利用者ごとに決めた連絡方法で安否連絡を行い共有する。

地震・津波対応マニュアル

～24時間

- ・管理者(指揮者)は直接活動せず安全が確保できる場所にて情報整理と指揮出しに集中する。
- ・管理者(指揮者)はスタッフによる安否確認で得られた情報に基づき、安否確認訪問の順序を定める。
- ・管理者(指揮者)は常に情報をアップデートし、各バディに指示を出す。バディの安全確保を第一として判断を行う。
- ・BCP発動の判断

<通信が維持されている場合>

- ・自宅待機している者も総動員し、手分けして被災しているエリアの利用者を安否確認優先順位表のABCD順に電話で安否確認を行う
- ・安否の取れた人はスプレッドシートに書き込む。
- ・安否確認では、スプレッドシートの項目の順に確認し、その情報を入力するようにする
- ・管理者(指揮者)は書き込まれた情報に基づき、安否確認訪問の順序を定める。

<通信が維持されていない場合>

- ・参集できるメンバーで

<安否確認の訪問>

- ・被災エリアで活動できる人員の範囲で、決めた優先順位に則り安否確認&救助の訪問を開始する。
- ・安否確認の訪問は、日中のみの活動に限る(夜間は行わない)。
- ・活動は二人一組(バディ)で行動。
- ・バディたちは戻る時刻を決めて、戻り次第点呼を行う。
- ・夜間は十分に休息をとることを心がける

- ・医療機器使用者に関しては、個別避難支援計画に基づいて行動する
- ・認知症または慢性疾患などにより自宅生活継続困難な利用者に関しては、まず近隣の一次避難所に非難する支援(または支援を近隣の支援組織に依頼)、担当職員や保健師と対応を相談する。
- ・怪我によりその場から動かすことができない場合や安全上に不安がある場合は、無理に対応せず、救助を要請する

～72時間

- ・3日以内にて自衛隊などの救助部隊の到着を見込むことから最長3日間の活動を予定する。
- ・活動が3日以上に及ぶ場合は、スタッフ休息や人員の交換、確保についても指揮者より指示を出す。
- ・BCP発動の判断:優先業務・縮小業務・停止業務に分け移行、可能な限り復旧を目指す。

・左に同じ

- ・避難所、救護所、救助部隊や医師会の災害拠点などにつないでいったあとは、それらの公的部署のサポートを行う。